

4 母子、成人、老人保健などに関する試験検査〔臨床部門〕

(1) 年間取扱件数

平成19年度の母子、成人、老人保健などに関する試験検査の取扱検体数及び検査項目数は、表2-4-1のとおりである。

(2) 先天性代謝異常症などの検査

ア 初検の検体取扱件数は、13,809件であった。また、初検において疑陽性又は検査不能検体などで再採血を依頼した延件数は、716件であった（表2-4-2）。

イ 疑陽性404件の中で最も多かった疾患は、クレチン症201件（49.8%）であり、次いで先天性副腎過形成症168件（41.6%）、ガラクトース血症26件（6.4%）、メープルシロップ尿症9件（2.2%）であった。初検の段階でクレチン症の5件、先天性副腎過形成症の6件が高値のためにスクリーニング陽性と判定された。また、再検の結果から陽性と判定したものは、43件（クレチン症16件、先天性副腎過形成症23件、ガラクトース血症4件）であり、これらの陽性者については、医療機関に連絡のうえ精密検査を実施することになった（表2-4-3）。

ウ 検査条件を満たさず、再採血を依頼した検体393件では、出生後1箇月若しくは体重2,500gになった時点又は退院時に再採血が必要である未熟児（出生時体重2,000g未満）が363件（92.4%）で最も多かった（表2-4-4）。

(3) 血液の一般及び生化学的検査

平成19年度の基本健診の検体受付件数は、1,673件であった（表2-4-1）。

表2-4-1 年間取扱件数

	総数		平成19年												平成20年		
	検体数	項目数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月			
先天性代謝異常	14,521	99,550	1,049	1,317	1,029	1,185	1,221	1,150	1,403	1,213	1,243	1,275	1,232	1,204			
血液検査	1,673	30,114	125	141	179	166	140	112	134	171	127	127	126	125			
計	16,194	129,664	1,174	1,458	1,208	1,351	1,361	1,262	1,537	1,384	1,370	1,402	1,358	1,329			

表2-4-2 先天性代謝異常症などの検査

	検体取扱件数	正常	陽性	再採血依頼
初検	13,809	13,082	11	716
再検	712	641	43	28
計	14,521	13,723	54	744

表2-4-3 疑陽性、陽性 疾病別内訳

疾患別	疑陽性		陽性	
	初検	再検	初検	再検
フェニルケトン尿症	0	0	0	0
メープルシロップ尿症	9	0	0	0
ホモシスチン尿症	0	1	0	0
ガラクトース血症	26	2	0	4
クレチン症	201	5	5	16
先天性副腎過形成症	168	19	6	23
計	404	27	11	43

表 2 - 4 - 4 検査不能検体など内訳

理由	件数
血液量不足	19
採血後10日以上経過	2
血液ろ紙汚染	0
乾燥不良	0
出生後4日以内に採血	2
阻害作用のため判定不能	3
重ねづけのため判定不能	4
未熟児	363
計	393